

2017年11月22日

## レース中止に至った経緯のご説明

選手だけでなく、スタッフも、地域の人も、山を共有するハイカーも、みんなが楽しめる。そんなレースを開催したいと思い、「Fun Trails 100K Round 秩父&奥武蔵 / Fun Trails 50K Two Lakes & Greenline」(FTR100 / FT50)を開催してまいりました。開催は今年で3年目を迎えました。

埼玉県に住み、地元埼玉県のフィールドでトレイルランナーとして活動してきた私は、いつからか「埼玉県の山々のハイキングコースをつなげば、100kmの壮大なトレイルレースが開催できるのでは」という夢を持っていました。国内外を問わず、様々なロングトレイルレースに出場してきた私にとって、地元の山でロングトレイルレースを開催して、埼玉県の素晴らしい山々の良さを知っていただき、楽しんでいただくこと。また、トレイルレースを通して地元へ経済効果をもたらすことで、地元へ貢献すること。そんなことをしたいという思いを持って活動してきました。そして、3年前に沢山の方々のご協力を得て、FTR100 / FT50の開催が実現しました。

開催を重ねるに従い、レース運営の向上をめざし改善をしてまいりました。安全の確保をするため、出場条件を設け、必携装備品も厳しく設定しています。また、コースマークも数多くつけ、安全上必要な箇所にはスタッフを配置しました。それでも、今回の事故は起こってしまいました。

事故発生時、目撃者からの連絡が複数入ったため、「滑落した選手は2名」という情報がありました。事実関係の確認をしながら、警察や消防との連携の必要もあり、急きょ事故対策本部を設置し、要救助者の捜索にあたることになりました。そのため、大会運営本部の中心メンバーのほとんどが事故対策本部にまわることになり、本来のレース運営にあたる人員が少なくなってしまいました。それでも、ギリギリの状態では回っており、「要救助者が無事に発見され、搬送が完了したら大会の運営を続けれるのでは」という考えがありました。しかし、実際はそうはならず、最悪の事態となってしまいました。

もし、この状況でさらなる事故が発生した場合、大会の安全管理体制を維持できなくなることは明らかでした。また、11月18日(土)の夕方からは、寒気が南下して気温が下がるという予報があり、低体温症のリスク、また、それに伴う事故の発生も予想されました。中止の判断が遅くなり、暗くなった場合、更なるリスクも考えられました。そのため、選手に明るいうちに安全に下山していただくことが最優先事項でした。選手の皆様の安全を最優先に考え、救護本部数名と協議し、その意見をもとに最終的に実行委員長である奥宮が中止を決定しました。

大会中止のアナウンスをしたものの、亡くなられた方の持ち物にはご本人確認ができる顔写真入りの公的証明書がありませんでした。そのため、ご遺族に本人確認をしていただくしか方法がなく、本人確認に時間がかかりました。また、ご遺族はご本人の情報をできるだけ公にしたくないというお気持ちがあり、ご遺族のお気持ちを最優先した結果、選手やボランティアスタッフ、関係者の皆様へ、中止に至った経緯を公表するまでに時間を要しました。誠に申し訳ありませんでした。

フィニッシュをめざして走っていた選手の皆様は、明確な理由を知らされないまま、突然の中止の決定にご納得がいかなかったことと思います。また、ボランティアスタッフの皆様も多く選手に「なぜ中止なのか？」と聞かれても答えることができないという辛い状況にいらしたと思います。そんな中、どの選手も冷静にボランティアスタッフの指示に従って我慢強く待ってくださり、落ち着いて行動してくださいました。また、現場のボランティアスタッフは情報が錯綜する中、それぞれの良識あるご判断により、選手の下山、安全に駅まで誘導する、選手の荷物を間違いなく返却するなどの対応をしていただきました。あの時、現場にいた多くのスタッフや関係者の皆さんの団結力は信じられないものでした。あの時の皆さんがいなければ、現場は大混乱になっていたかもしれません。本当にありがとうございました。

このたびの事故により亡くなられた方は、当レースが開催される山域が大好きで、当レースに出場することを楽しみにしていたそうです。このような結果になってしまい、本当に残念で悔しくてなりません。しかし、この事を無駄にしてはいけなと強く思っています。事故の原因を検証し、安全対策に対しても万全であったかを再検討し、レース中に二度とこのような事故が起こらないようにしていかなければと思っています。また、この事故を日本全国のトレイルレースの主催者様と共有し、日本のトレイルレースの今後につなげたいと考えております。

事故に関する詳細につきましては、事実関係を調べた上で改めて事故報告書にて報告いたします。

亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族様へお悔やみを申し上げます。

大会実行委員長  
奥宮俊祐